

A wide-angle photograph of a cityscape at sunset. The sun is low on the horizon, creating a strong lens flare and casting a warm, golden glow over the scene. In the foreground, a dark, forested hillside slopes down towards the city. The city itself is densely packed with buildings, and a river or canal winds through it. In the background, a large, snow-capped mountain rises prominently against the sky. The overall atmosphere is peaceful and scenic.

ダイヤモンド大山とオレンジロー

天守台から見たダイヤモンド大山

天守台から見たダイヤモンド大山

米子城關係年表

時代	年号（西暦）	出来事
戦国	応仁元年（1467年）	このころ、山名教之の配下 山名宗之（宗幸）が米子飯山砦を築いたと伝わる。
	大永4年（1524年）	出雲の尼子経久、伯耆に侵入して米子城を攻める。
	永禄5年（1562年）	このころ米子城は毛利氏の支配下に入る。
安土桃山	天正19年（1591年）	東出雲・西伯耆・隠岐の領主 吉川広家が米子湊山に築城開始。
	慶長5年（1600年）	関ヶ原戦いの結果、吉川広家は周防国岩国へ転封。 中村一忠が伯耆国18万石の領主となり駿河国から尾高城に入る。
	慶長7年（1602年）	中村一忠が尾高城から完成した米子城に移る。
	慶長8年（1603年）	11月14日、中村一忠が家老横田内膳村詮を誅殺。 横田村詮の家臣ら抵抗し、出雲富田城主 堀尾吉晴の応援で鎮圧。（米子城騒動）
江戸	慶長14年（1609年）	中村一忠が20歳で急死し、中村家が断絶する。
	慶長15年（1610年）	美濃国黒野城主 加藤貞泰が伯耆国会見・汗入郡6万石領主として米子城主となる。
	元和元年（1615年）	幕府が一国一城令を発し、伯耆国では米子城以外が廃城となる。
	元和3年（1617年）	加藤貞泰、伊予国大洲に転封。 因幡・伯耆国の領主となった池田光政の一族、池田由之（3万2千石）が米子城預りとなる。
	寛永9年（1632年）	池田光仲が因幡・伯耆国の領主となり、以後、筆頭家老荒尾氏（1万5千石）が代々米子城預りとなる。
明治	明治2年（1869年）	米子城が藩庁に引き渡される。
	明治5年（1872年）	米子城が、士族に払い下げられる。
	明治6年（1873年）	城内の建物が売却され、数年後、取り壊される。

米子市立山陰歴史館

山陰歴史館は、令和8年11月1日から改修工事等のため休館になります。休館中のお問い合わせは下記までお願いします。

所在地 鳥取県米子市中町 20
TEL 0859-22-7161
FAX 0859-22-7160
HP <http://yonagobunka.net/rekishi/>



「続100名城スタンプラリー」の
米子城スタンプの設置場所

- ・米子城跡三の丸番所(8:30~17:00)
- ・米子市立山陰歴史館玄関前(終日)

米子城跡 鳥取県米子市久米町63-1
※三の丸番所 開所時間 8:30~17:00

交通アクセス(米子城跡柁形まで)

【路線バス】「米子駅」から だんだんバス(歴史コース)に乗車
「米子城前」下車 柁形まで徒歩約3分

【徒 歩】「JR米子駅」より約15分

【車】「JR米子駅」より約5分

駐車場／米子城跡三の丸駐車場、湊山公園駐車場をご利用ください。
(杵形から湊山頂上(天守台)まで、徒歩15分程度かかります)

問い合わせ先 米子市文化振興課

〒683-8686 鳥取県米子市東町161番地2

TEL : 0859-23-5437

FAX : 0859-23-5414

Email : bunka@city.yonago.lg.jp

このリーフレットは、令和8年度に作成しました。

国指定史跡

よな ご じょう あと
米 子 城 跡

鳥取県米子市

米子城 大小天守を持つ山陰 随一の名城

米子市の中心市街地、標高約90mの湊山(みなとやま)に築かれた米子城は、別名「久米城」(くめじょう)とも呼ばれ、安土桃山時代に築かれはじめた、本格的な近世城郭です。山頂に五重の天守と四重の副天守(四重櫓)の大小二つの天守を持つ壮麗な城で、周囲には中海の水を引き込んだ二重の堀が巡らされていました。

城内の建物は全て失われてしまいましたが、石垣や礎石などは当時の形態をよくとどめています。また、古文書や絵図なども数多く伝えられており、平成18年(2006年)に国史跡に指定されました。令和3年(2021年)には、江戸時代に米蔵が建ち並んでいた三の丸の一部が追加指定されています。

現在、米子城跡周辺は「湊山公園」として利用されており、大山や中海を一望できる天守台からの眺望は、絶景の城として多くの市民に親しまれています。



「伯耆国米子城絵図」文久3年(1863年) 山陰歴史館所蔵

米子城の歴史

米子城は、応仁から文明年間(1467年～1487年)に、山名宗之によって砦(とりで)として飯山に築かれたのが始まりと伝えられています。

現在、「城山」と呼ばれている湊山の近世城郭は、西伯耆の領主となった吉川広家(きっかわひろいえ)が、天正19年(1591年)に築城を開始したものとされています。しかし、慶長5年(1600年)の関ヶ原合戦に敗れた吉川氏は、完成した城を見ることなく岩国へ国替となり、替わって伯耆国18万石の領主となった中村一忠(なかむらかずただ)によって、慶長7年(1602年)頃に完成されました。

一忠の急死により中村氏が断絶すると、会見・汗入郡6万石の領主として加藤貞泰(かとうさだやす)が入城し、元和3年(1617年)には、鳥取藩主池田光政の一族、池田由之(いけだよしゆき)が米子城を預かり3万2千石となります。

寛永9年(1632年)には、鳥取藩筆頭家老の荒尾成利(あらおなりとし)が1万5千石で米子城預かりとなり、以後11代に亘って荒尾氏が管理していました。明治5年(1872年)に、米子城は士族に払い下げられ、その数年後に全ての建物が取り壊されました。



発掘調査時の登り石垣(現在は埋め戻されています)



VR で復元された登り石垣



VR で復元された天守



二の丸表中御門



VR で復元された二の丸表中御門

VRによって復元された建物

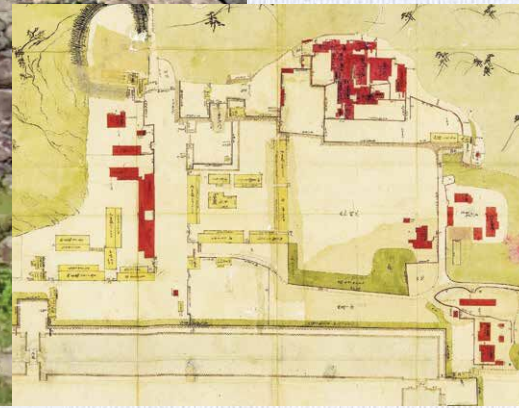
「ストリートミュージアム」のアプリは、右のQRコードを読み取ってダウンロードすることができます。



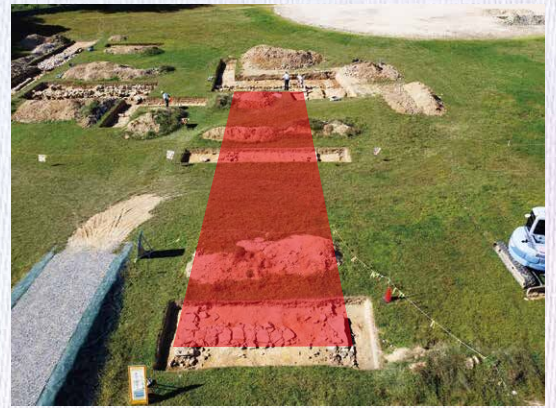
米子城の建物は、明治以降に全て取り壊されてしまいましたが、石垣は良好に保存されています。米子城を訪れてスマートフォン等で「ストリートミュージアム」のアプリをダウンロードすると、VRで復元した当時の米子城の姿を、リアルに見ることができます。



上空から見た米子城と城下町(堀の位置を示す)



「米子御城内平面図」の三の丸 江戸時代末期 山陰歴史館所蔵



発掘された米蔵の建物基礎

三の丸発掘調査の成果

三の丸の中心部は、江戸時代には米蔵が十数棟も建ち並んでいた場所ですが、発掘調査で地下に米蔵の基礎や石組水路などが良好に保存されていることがわかりました。1棟の米蔵の規模は、長さ30m、幅6mで、片側に庇(ひさし)が付く大規模な建物でした。石組水路は、内堀に向かって緩やかに傾斜しており、溝の底は割石を敷き詰めた非常に丁寧な造りで、庭園など特別な空間に繋がる水路と考えられます。



米蔵建物の基礎



石組水路